



# 令和3年度 スマイル@おむつ宅配便 事業報告書

地域で実践する、誰も取り残さない連携づくり

2022年03月31日  
NPO法人こどもの居場所づくり in かわぐち

# 子どもたちへのコロナウィルス災害の影響

国

- 第二次産業(輸出入機能停止等)の衰退
- 第三次産業(観光・飲食)の衰退

地域

- 経済活動の減退
- 解雇・雇い止め、失業

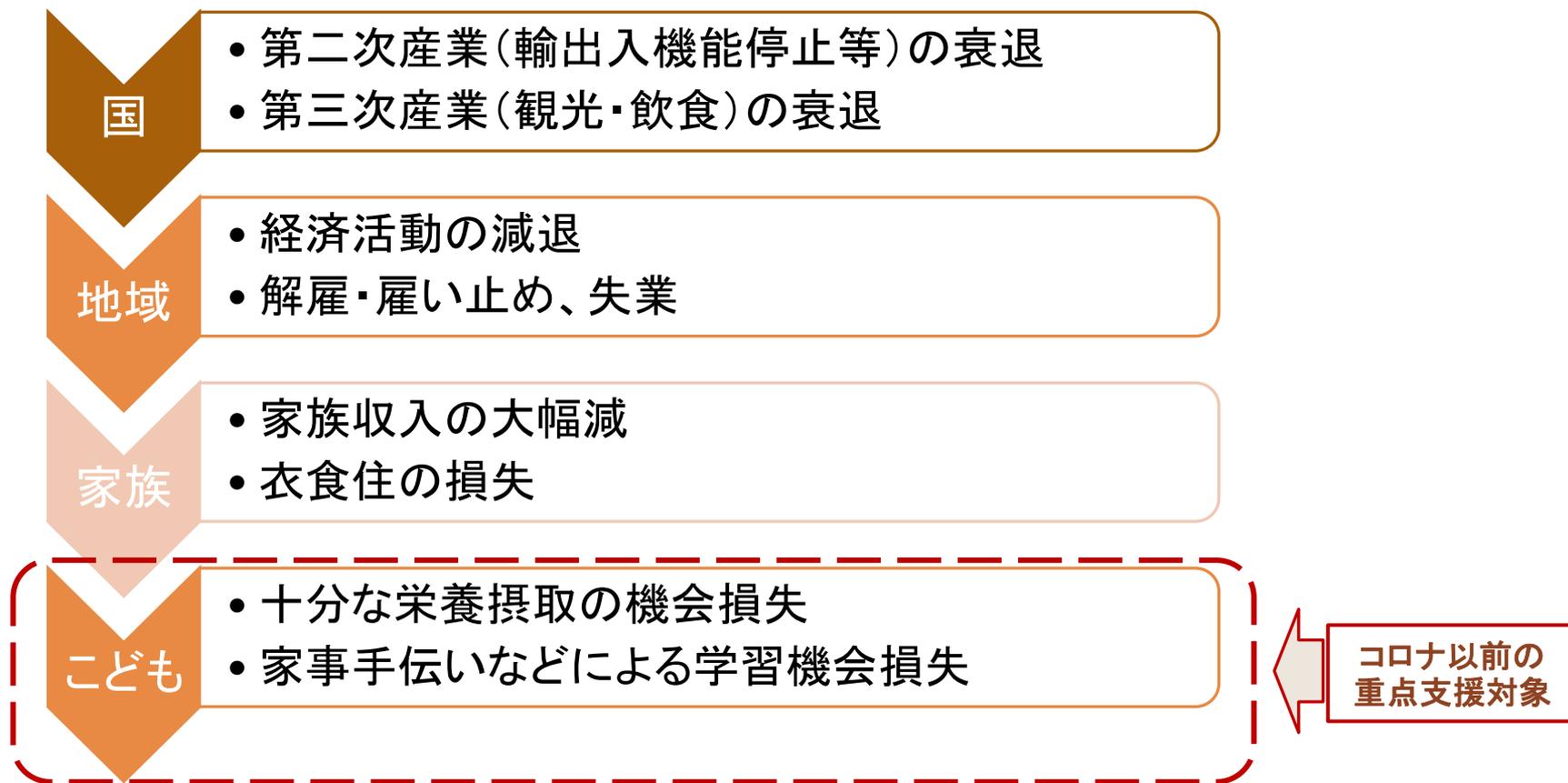
家族

- 家族収入の大幅減
- 衣食住の損失

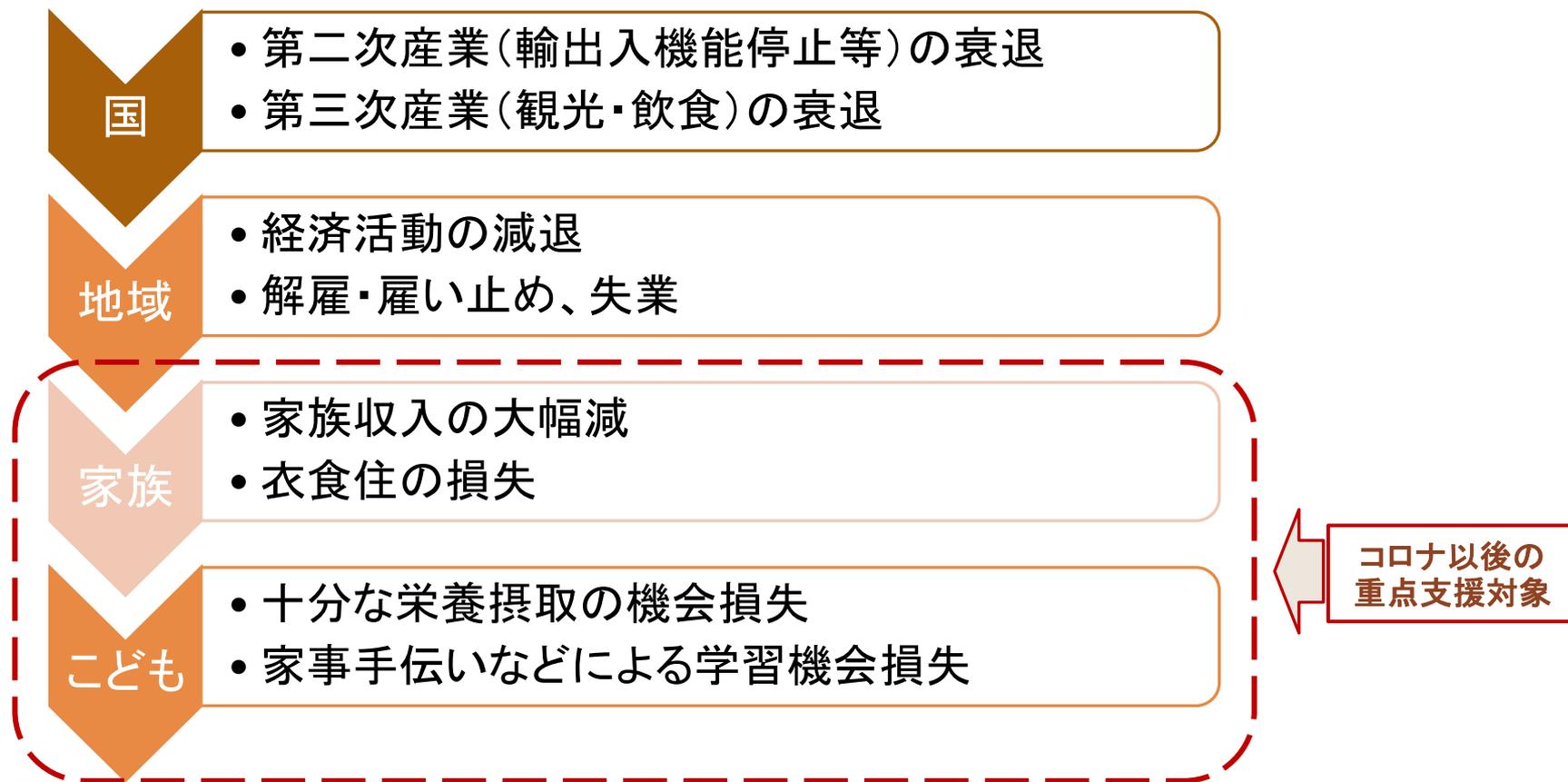
子ども

- 十分な栄養摂取の機会損失
- 家事手伝いなどによる学習機会損失

# こどもたちへのコロナウィルス災害の影響



# こどもたちへのコロナウィルス災害の影響



# ある一家への懸念

## ◆家族構成

母、長女(中2)、長男(小6)、次女(小2)の4人家族(2020年当時)

## ◆家族内状況

母 :スナック経営、事務、コンビニエンスストアアルバイト、配達等を掛け持ち。

長女:不登校気味で、学校に行けない日が多い。

長男:小2～4頃、非行を繰り返し、補導を何度も受ける。

父親は長男が小2の頃、DVを繰り返し、その後に離婚し、家を離れる。

## ◆状況

・2020年03月頃:妊娠が発覚。お相手はスナックの関係者。出産は同年11月を予定。

・2020年07月頃:妊娠の報告を母より受ける。籍は入れず、同居もしないとのこと。

## ◆支援者側の懸念事項

「長女、長男、次女を置いて、母は家を出てしまうのでは…？」

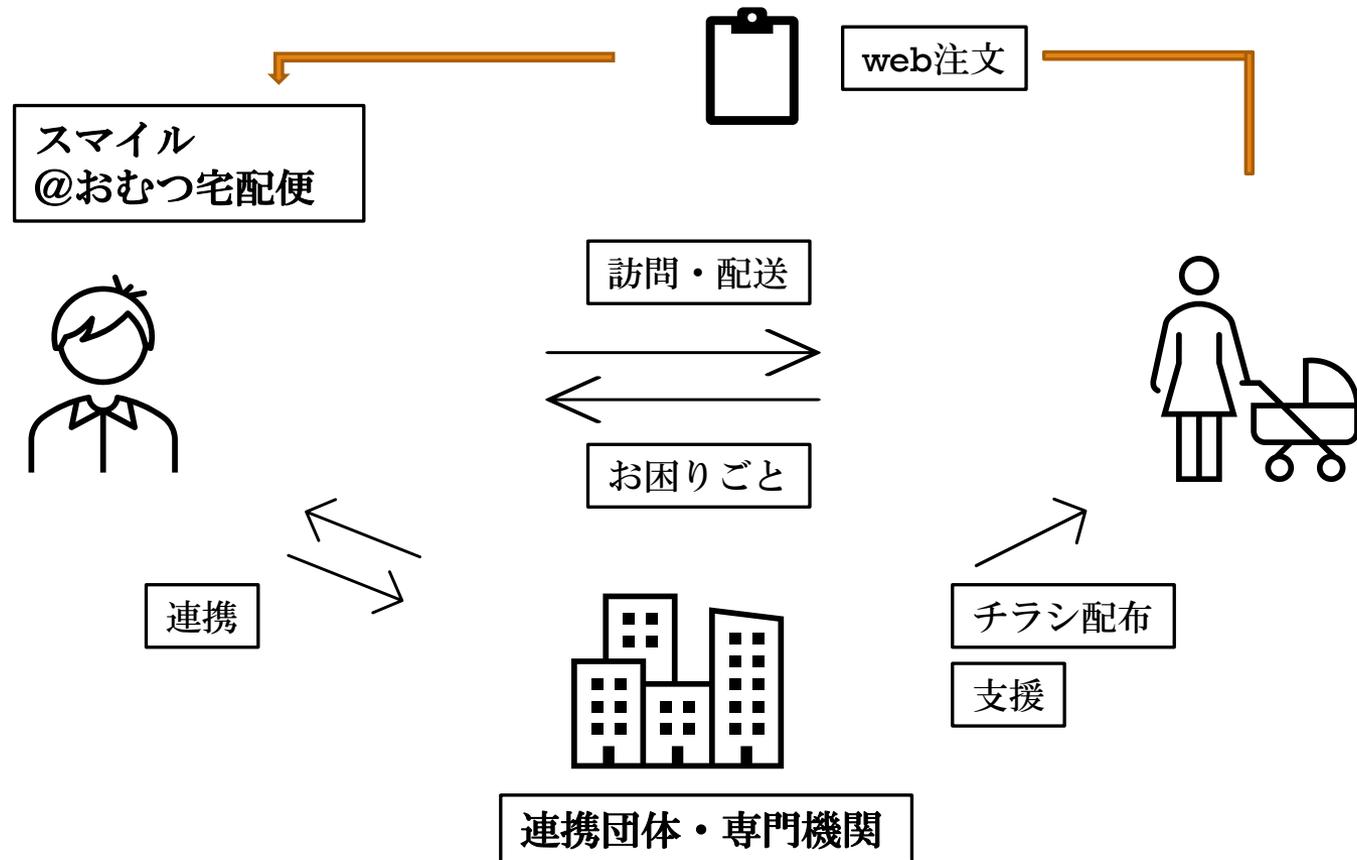
「新しい父親となる人と、こどもたちはうまくやっていけるのだろうか…？」

「新しい父親となる人は、本当に大丈夫だろうか…？またDVをしないだろうか…？」



赤ちゃん、こどもたち、お母さんを救いたい、繋がりを絶やしたくない！

# 日本初！民間によるおむつ宅配見守り事業



# こども支援から“家族丸ごと”支援へ

---

オムツや食材は「コミュニケーションツール」

家族との交流を通して、児童虐待の芽を摘む

孤立をなくし、継続的に「家族」と繋がる



地域で実践する、  
誰も取り残さない連携づくり

# 事業概要(計画当初)

対象世帯	A.川口市戸塚地区 B.川口市全域 お困りごとを抱える家庭(※要件あり)
世帯数	10世帯
配送品目	おむつ他ベビー用品(2,500円相当)
配送頻度	月1回6か月継続(2020年10月～第一期予定)

※要件:事務局・支援員が要支援と判断した家庭(妊娠期含む)

# 事業概要(計画当初)

事務局	NPO法人こどもの居場所づくりinかわぐち すまいる@オムツ宅配便担当
配達員	ボランティアスタッフ10名(2名1組、*研修あり) 地域民生委員・児童委員、主任児童委員
協力員	事務局・配達員のサポート、チラシ配布など
連携	民間:地域こども食堂・地域フードパントリー、 笑顔のコミュニティかわぐち、学習支援団体他 行政:川口市社会福祉協議会、川口市子育て相談課

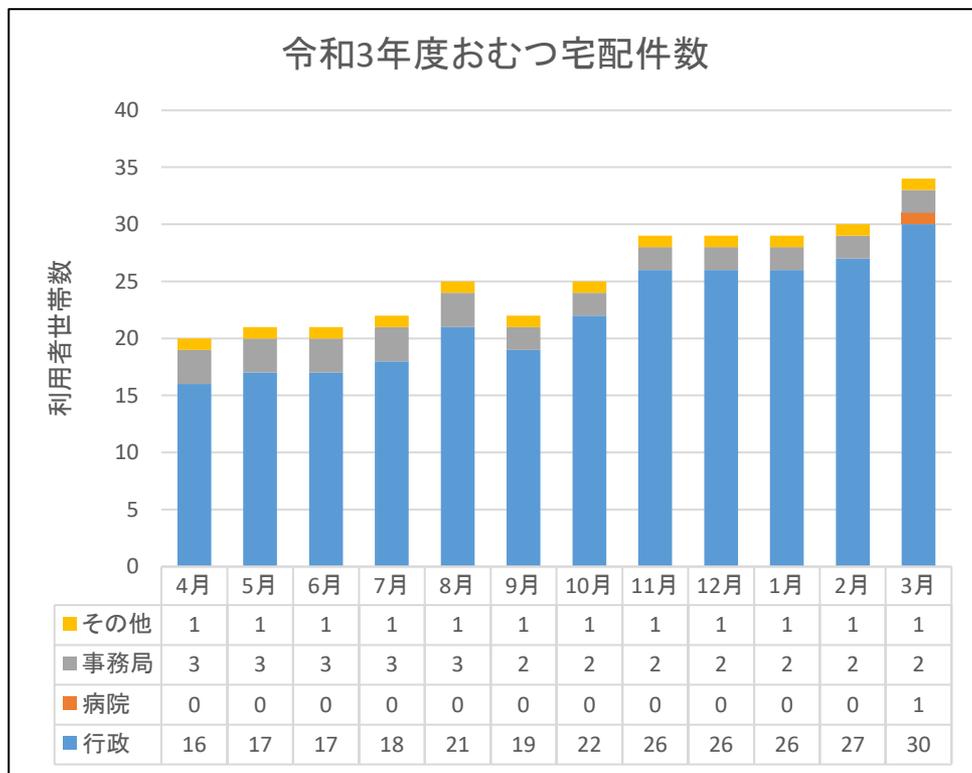
# 行政によるおむつ宅配事業について

## ◆主な行政の事業実施状況

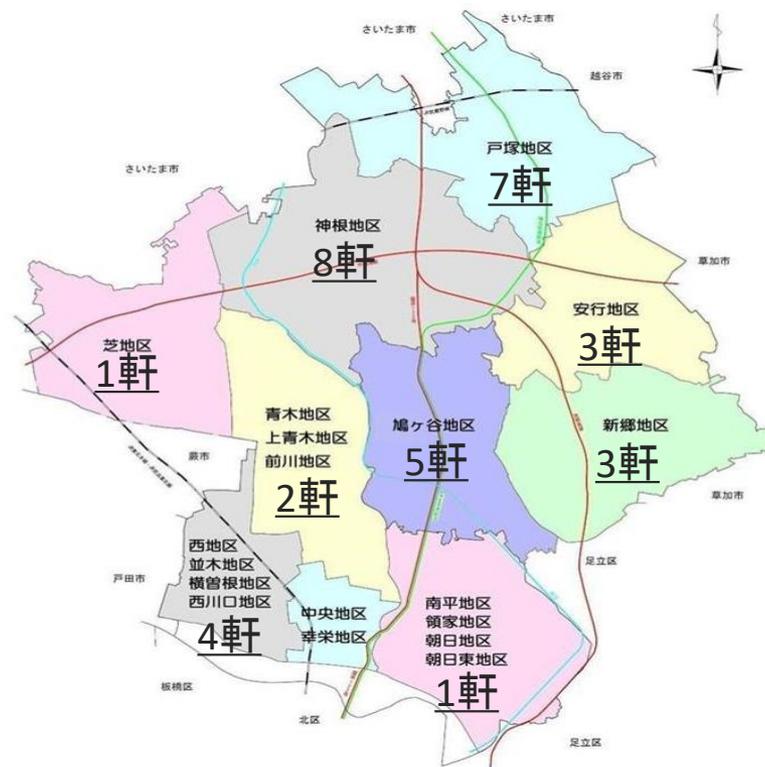
	滋賀県 東近江市	兵庫県 明石市	奈良県 奈良市
対象年齢	満1歳未満	3か月～満1歳	満7か月
回数・制限	月1回、 対象年齢まで	月1回、 対象年齢まで	月1回、 最多6回まで
対象	制限なし	制限なし	10代で出産 された家庭や 多胎児
委託先	コープしが	コープこうべ	-
おむつの種類	多数あり	多数あり	1種類のみ

# おむつ宅配事業活動報告(2022.03.25時点)

## ◆おむつ宅配件数



## ◆地区別登録件数



地区の主任児童委員（9地区/10名）が積極的に配達に同行し、支援の輪が広がる。

# 数値目標達成状況

## ◆宅配先世帯での虐待案件:0件(目標値:0件)

継続支援を行っている世帯では虐待に発展する事案は発生しなかった。引き続き、家族との繋がりを絶やさぬよう、関係を構築し、乳児の対面による確認を継続していく。

## ◆宅配先世帯への継続支援:98%(目標値:100%)

36世帯中1世帯が音信不通となる事象が発生した。行政・民間の両翼で見守り支援を行っていたが、急に失踪してしまった。現在、東北地方に引っ越しているという情報があり、行政と情報交換を行い、母子の行方を追っている。

## ◆その他地域支援リソースへの支援展開:35%(目標値:40%)

事業中間時点でのその他地域リソースへの支援展開状況は以下の通りである。  
(12世帯/34世帯)

当法人のこども食堂での支援:3件 / こども食堂他の地域支援団体:4件  
行政サービス等:3件 / フードパントリー団体:1件 / 弁護士:1件

# 活動によって得られた成果

## ◆行政でも開けられない「扉」を開けることを可能とする。

おむつ宅配を通して、利用者宅の建物の「扉」と心の「扉」2つを開けることができるようになった。行政への嫌悪感を抱く子育て世帯が多い中、おむつ宅配を通して民間団体が繋がり、建物・心の扉をそれぞれ開放することができた。

## ◆平日は行政、休日は民間で、365日切れ目のない支援。

民間・行政によるメリハリのある見守り体制を構築し、子育て世帯を孤立させない支援を継続することができた。

## ◆「家族丸ごと支援」で、早い段階で網掛け支援を実現。

10代、20代で家庭が不安定な青年たちと出会う中で、幼少期の家庭環境を強固なものであることの重要性を感じた。今、幼少期のこどもたちの世帯をサポートし、彼らが青年となった時、より安定した家庭環境にあるようサポートしていきたい。

## ◆民生委員児童委員、主任児童委員の存在価値を高める活動。

個人情報保護の観点などからなかなか地域の生活にお困りの世帯への支援の手を差し出すことができない民生委員児童委員・主任児童委員にとって、おむつ宅配を通して、生活にお困りの世帯と関われることは大きなやりがいへと繋がっている。

# おむつ宅配事業 事例集A

---

## ◆家族構成

父、母、長女(小2)長男(6才障害あり,来年入学)次女(1才)次男(7ヶ月)

## ◆家庭内の問題

中部地方から引っ越してきて、知り合いもなく孤立世帯

父:(介護職)収入が少なく、経済困窮。

母:障害?家事(食事の支度、洗濯等)ができないため、夫が帰宅して、食事を作る。

子どもたち:きちんとした食事を摂れていない。

次女、次男:発育不良(ミルクを決められた量を飲ませていない)児童相談所にて、  
一時期預かり。

## ◆おむつ宅配開始当初の状況

明るく、何でも大丈夫という母、元気に走りまわる長男、問題のなさそうな世帯。

## ◆おむつ宅配による変化

- ・長男の障害(多動性他)について、話すようになった。
- ・電子レンジ、ガス台、洗濯機など、必要と思われる電化製品を揃え、普通の暮らしに近づきはじめている。

# おむつ宅配事業 事例集A

---

## ◆他の団体との連携、支援の輪の広がり

- 5才の長男が、全く集団生活をしたことがないため、近くの子育て支援センターを紹介する。  
しかし、障がいがあるということで、母が支援センターを利用することを拒む。
- 保健師より、「きちんとした食生活を摂れていないことが問題。」と情報を受けて、地域のこども食堂を紹介。
- 一人では行きづらい面もあるということで、地区主任児童委員と同行し、こども食堂を紹介する。
- その後、毎週土曜日、定期的に自ら地域のこども食堂へお弁当を受け取りに行き、こども食堂のボランティアスタッフと交流を広めている。

## ◆その後

- 5人目を2022年7月出産予定。
- 長男:当NPO法人やパートナーシップ団体と協力し、長男の入学準備のサポートを実施。  
長女:ゲームにはまってしまい、学力に遅れがみられるため、放課後の学童保育を勧め、サポート体制を強化している。

# おむつ宅配事業 事例集B

---

## ◆家族構成

父、母、第2子(男8ヶ月)

(※17才で出産した第1子は児童相談所預かりとなっている。)

## ◆家庭内の問題

母:育った家庭環境が複雑で、軽度の精神障害あり。生活困窮世帯。

## ◆おむつ宅配開始当初の状況

- ・父と別居の状態。
- ・母:精神的に不安定で、表情もなく、食事もほとんど摂らない。
- ・こども:ミルクも与えてもらえない状況。

訪問した保健師が異常に気付き、私たちが提供したミルクを、子育て相談課が何度も届け、ケアを図る。

## ◆おむつ宅配による変化

- ・同居している妹夫婦や実父と、家族関係がうまくいっておらず、お金を盗まれた、スマホを勝手に見られたなど、不満を口にするようになる。
- ・別居していた父と一緒に暮らすようになって、落ち着き、自分の家族だけで暮らしたいという願望を口にするようになる。

# おむつ宅配事業 事例集B

## ◆他の団体との連携、支援の輪の広がり

- 母が望んでいたように、父の職場のアパートを借りられることになり、隣の越谷市に父、母、子の3人で引っ越しすることとなる。
- 市外に引っ越した場合は、おむつ宅配の支援を続けられないため、転居先での再孤立が懸念される。
- 行政間での引継ぎが十分になされるのか、転居先での生活へのサポートは大丈夫か、懸念する。
- 県のフードパントリーネットワークを活用し、転居先のフードパントリーと地域の主任児童委員繋がりをもち、引継ぎカンファレンスを実施。  
引継ぎ後は、フードパントリー代表・地域主任児童委員が同行し、転居先を訪問。
- 転居先でのお困りごとの窓口となって下さる主任児童委員を紹介。  
また、地域フードパントリー活動も紹介でき、登録され、支援体制が構築される。

## ◆その後

- ご主人は家を出て行ってしまい、生活保護を受給となる。
- こどもは児童相談所預かりとなり、現在はアパートに一人暮らし。
- 越谷市民児協会長が、こども福祉課、児童相談所と連携し、今後は地域の民生委員児童委員も見守っていくことになる。

# おむつ宅配事業 事例集C

---

## ◆家族構成

父、母、長女(1才8ヶ月)、次女(4ヶ月)

前夫との第1子(男の子)は虐待により児童相談所預かり後、母方実家に引き取られる。

## ◆家庭内の問題

前夫とのこどもを、現夫の暴力による虐待により保護。以降、現夫は行政からの連絡を拒否。

## ◆おむつ宅配開始当初の状況

・現夫は、実子は大変可愛がっている様子。夫婦仲は、夫のモラハラ?により、うまくいっていない様子。母は、生活費をあまり渡されていないのか、転々と仕事を変えて長続きしないが、こどもたちを保育園に預けて、収入を得ようとしている。

## ◆おむつ宅配による変化

・前夫のこどもの状況については、一切語らなかつたが、最近になって、話すようになった。夫は、そのこどもの虐待の件で、後ろめたさを感じ、また疑われることを怖れているのだと思うと胸の内を話してくれた。

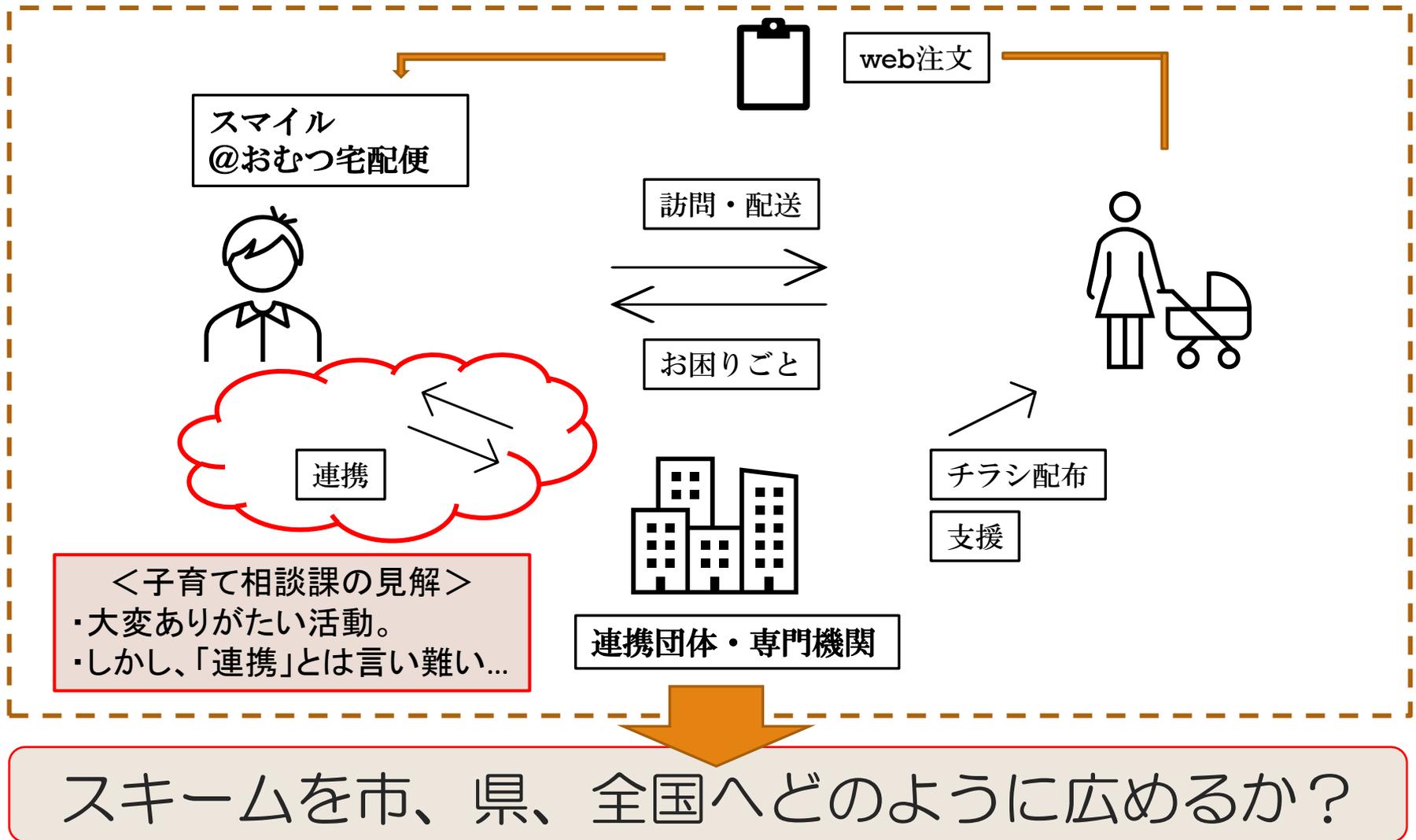
# おむつ宅配事業 事例集C

---

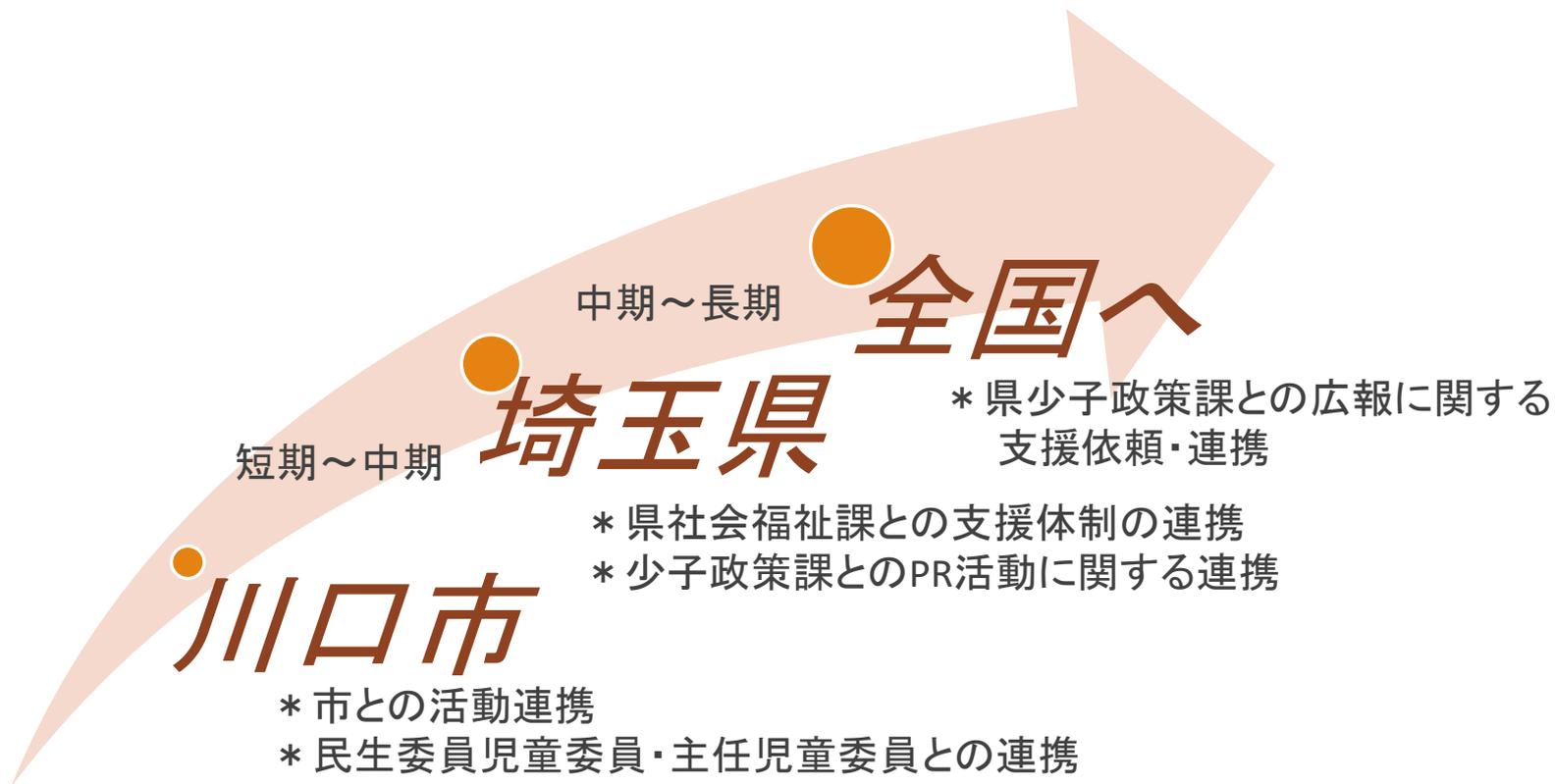
## ◆他の団体との連携、支援の輪の広がり

- 保健ステーションが、第2子の新生児訪問の予約の連絡をしても、全く連絡がつかず。
- 連絡なしで訪問したところ、夫が約束がないと会わないと言い、3か月すぎても、新生児訪問が出来なかった。
- 夫はコロナ感染があるから、外部の人間を家に入れるな、もしどうしてもやるならば、自分のいる時に、自分が立ち会うと言って聞かず、予約することもできなかった。
- おむつ宅配の際、第2子に湿疹など気になる点があったため、はやく新生児訪問を受け、保健師にみてもらったほうがいいとアドバイスを実施。
- 母が電話を受けるのに都合のいい時間を聞いて、保健師に、その時間に連絡するようにお願いして、夫の立会いなしで、やっと新生児訪問が実現した。

# おむつ宅配事業の課題



# 広報コンセプト:仕組みをオープンに!



「日々の活動」と「発信力向上」の両輪で全国へ

# 広報活動計画:埼玉県～全国への広報活動

---

## ◆広報活動方法

### ①PR TIMES(有料版)への掲載

メディア関係者に向けて発信されるプレスリリースサイトへの掲載

### ②パンフレット作成

\* 概要:おむつ宅配の仕組みや利用者様の声を掲載したパンフレット作成

\* 配布先:埼玉県内市町村子育て関係部署、社会福祉協議会 他

### ③活動紹介動画作成

\* 概要:仕組み紹介のVTRや利用者様やスタッフの生の声を収録した10分程度の動画。

\* 配布先:埼玉県内市町村子育て関係部署、社会福祉協議会、各都道府県子育て関係部署 他

# 令和3年度スマイル@おむつ宅配便事業報告会

## ◆事業報告会開催概要

\* 日時:令和4年03月26日(土)14時00分～15時00分

\* 会場:川口貸会議室

\* 参加者数:38名(内Zoom:3名)

(埼玉県少子政策課、NPO法人埼玉フードパントリーネットワーク)

\* 参加者内訳(会場):川口市保健センター・5名

川口市社会福祉協議会・3名

市民生委員・主任児童委員・9名

その他民間支援団体関係者・18名

\* 参加者内訳(Zoom):NPO法人埼玉フードパントリーネットワーク

公益財団法人日本財団

埼玉県少子政策課





誰一人取り残さない地域を目指して、  
あなたの力を貸してください。